

放送大学 北海道同窓会会報

第47号

発行 放送大学北海道同窓会

発行責任者 中根恵美子

発行日 令和7(2025)年12月17日(水)

URL: <http://hhdoso.sakura.ne.jp>

会員数 244名

(2025年11月30日現在)

「みな様 お元気ですか？」

放送大学北海道同窓会会長

中根 恵美子

全国各地で実に多様な災害が起きました。熊などの猛獣も生息圏が人間の生活圏と重なり、多大な災害と恐怖を与えています。被災された々に謹んでお見舞いを申し上げます。

令和7年も師走となり、光陰矢の如しと感じているのは私だけでしょうか。3月に学位記授与式や卒業を祝う会があり、卒業文集ひとこと集を編集、発送し終わったら、入学式があり、会報を編集発行して、11月の研究発表会の準備をする。この繰り返しで、1年が去っていきます。年が明けると、「1月は行ってしまっ、2月は逃げて行って、3月は去ってしまい、気が付いたら桜が咲いていた」とならないよう気を締めたいと思います。



今年度後半の同窓会の活動は9月6・7日に山形市にて山形同窓会が幹事同窓会となり、第12回放送大学同窓会連合会地区交流会に私と吉田幹事2名で参加し情報交換などの交流をしました。9月中旬は文化祭、9月27日は学位記授与式の後に卒業を祝う会を開催し、10月5日には入学式があり11月22日には第21回放送大学研究発表会をハイブリッドで開催できました。(文化祭と研究発表会は同窓会・学友会などの学生サークルと学習センターが協働する実行委員会形式)

当同窓会の活動はボランティア精神の役員の活動がメインですが、学友会や学生サークルの皆さんが同じ心意気で応援して協力してくださっています。そして、山田所長や山内事務長、学習センター事務員の皆様が、その活動を多大な協力と支援でバックアップしてくださっています。全員野球で母校の応援団であり続ける。後輩がこの同窓会を引き継いで行く時もこの絆をさらに強めながら活動してほしいと強く願っています。そして、活動の中での感動を分けてあげたいです。皆様に同窓会の役員になってほしいです。

さあ!みな様 新しい年も明るく元気に迎えましょう!!

第12回 放送大学同窓会連合会 東北北海道地区交流会

北海道同窓会幹事

吉田光穂子

9月6・7日、東北・北海道ブロック地区交流会が開催されました。この会は、東北北海道地区の同窓会役員が一同に会し、公開講座を通じて知見を広めること、大学本部や同窓会連合会の最新情報を取得し、それぞれの同窓会運営等についての情報交換によって母校を支える活動をバージョンアップすること、また、交流会開催地の歴史文化を体感することによって、地域に根差す放送大学の生涯学習を一般へ広報することを目的としています。



9月6日(土)は、山形駅直結の霞城セントラル10階にある放送大学山形学習センターにて、記念講演会と情報交換会、夜は懇親会、翌7日(日)は、霞城公園内山形

城址と最上義光歴史館の見学研修というスケジュールでした。天気にも恵まれ、主催の山形同窓会の役員・会員の方々のアテンドのおかげで、参加総数30名の皆さんと共に充実した時間となりました。

総会第1部の記念講演会は、放送大学山形学習センター客員教授で山形大学教授、歴史考古学が専門の荒木志伸先生から「城下町山形の発展と歴史文化遺産 ―山形城、最上義



光歴史館の見学に寄せて―」をテーマにお話を伺いました。当初は出羽三山をテーマに検討していたそうですが、山形城主として有名な最上義光を取り上げてもらおうと変更になったそうです。理由として、最上義光は、大河ドラマ「独眼竜政宗」で甥にあたる伊達政宗に対して強烈な悪役として描かれ、官城から見たら山形の悪人として見られているとのこと、山形県民としては、近県から集まる皆さんにその汚名を払拭しつつ山形の歴



史への理解を深めてほしい、とのことだったそうです。そのようなエピソードを聞くと、地域への想いとそこに根差した大学の学びは、放送大学ならではの感じます。

最上家は、お家騒動により文献資料の残存が少ないそうですが、最上義光は直接的な戦闘をせずに勝利する道を模索する方策をとっていたそうです。それにより田畑の荒廃もなく、増税もなく、一揆も起こらず、また住宅資金の援助なども行ない、定期市によって城下町も発展し、出羽の領民にとっては善き殿様だったようです。山形県民から慕



われる理由が感じ取れます。続いて、明日の見学研修のための予習として、最上義光らしさが描かれた長谷堂合戦図屏風とその背景、山形城の規模を現在の地図との比較検証もあり、ここ山形だからこそその学びを体感できました。

第2部の同窓会情報交換会は、山形同窓会の柳澤会長挨拶に始まり、山形学習センター



の山本所長の挨拶へと続けました。山本所長も最上義光を研究されておられ、山形コミュニティ新聞に連載された記事を配布いただきました。ここからも最上義光の魅力を感じ得ることができました。

大学本部の近藤副学長からは、放送大学の近況として入学者の推移、来春より海外在住の学生の

受け入れといった報告がありました。また今後に関して、教学 Vision として学歴でなく学習歴を認証するマイクロレデンシャルの授与、放送大学は他の高等教育機関と連携して他大学を支援する大学にもなるという高等教育システムの再構築についても説明がありました。昨今話題になっているAIの利用は、NotebookLMの活用例をもって紹介いただきました。



同窓会連合会の須藤会長と尾山事務局長からは、今年度の学位記授与式・祝賀パーティーについて、連合会の ZOOM アカウント運用、オリジナルバッジや T シャツ販売等の情報提供がありました。また個人情報の取り扱いについて、適切な安全管理の説明を受けました。

その後、各同窓会からは同窓会情報交換会報告シートをもとに、報告と意見交換会が行われました。各同窓会からは、同窓会員加入・役員の確保、イベントやサークル、ICT を活用した運営、学習センターとの連携といった観点から報告があり、それぞれの地域の特徴を生かした活動が見受けられました。ここ数年コロナによる活動の制約がなくなったことで、対面交流の活動量は復活してきたように感じました。一方、ICT (ZOOM など) は各地域で利用頻度が異なっています。

総会第3部は、同じ霞城セントラル 24 階のレストランで懇親会が行われました。ちょうど夕刻から日の入りの山形市内が一望でき、明日見学する山形城址も見え、地図資料を見ながら先ほどの講演の復習もできました。懇親会での話しはかなり多岐にわたり、情報交換会で出た話題を補う情報交換ができました。特に ZOOM をコミュニケーションツールとして活用し、より気軽に交流を深めていこうと話題が上がりました。総会1部2部の雰囲気とは変わって、楽しく親交を深める時間にもなりました。



翌朝は、8:50 に山形学習センターに集合し現地研修が始まりました。昨日講義をしてくださった荒木先生が引率してくださり、霞城公園の南門から城へ入ります。石垣の修復の歴史、本丸一文字門の修原、本丸の発掘作業など、昨日の記念講演の内容を実地で確認できる、とても興味深い見学となりました。城址公園になっていることもあり、お濠に沿って自転車で通学したという山形学習センターの方もおり、山形市民にとっては日常生活に溶け込んだ城なのだと感じました。

最上義光歴史館には、昨日の講義にあった「長谷堂合戦図屏風」が展示されておりました。殿様らしくしていただかず、自ら敵に向かって突進していってしまい、家臣から怒られたというらしい最上義光らしいというエピソードを思い出しながら観賞できました。一方で、連歌作品も展示されており、文化人としての側面や人柄も伺い知ることができました。



山形学習センターに戻り、総会は解散となりました。山形同窓会の皆さんの細やかな気配りやアテンドのおかげで、内容が濃くスムーズに進んだ2日間でした。大変お世話になりました。最上義光の汚名は返上できた学びにもなりました。



りました。

私は第10回から参加させていただき今回で3回目となりました。来年は福島で開催とのことです。放送大学、同窓会、学びに対する意味、そして人とのつながりの価値を改めて感じる事ができた交流会でした。

9月27日 令和7(2025)年1学期の学位記授与式が開催されました

放送大学北海道学習センター、旭川サテライトスペースで執り行われました。苦難を乗り越えてはれて学位を手にした方、本当におめでとうございます。今学期の北海道学習センターから66名の新学士と旭川サテライトスペースから8名の学士が合計74名が誕生しました。



「ご卒業おめでとうございます」

放送大学北海道学習センター
所長 山田 義裕

本日お集まりの皆様、このたびは放送大学のご卒業、まことにありがとうございます。皆様が晴れて学位記を授与されたことを心よりお祝い申し上げます。

今回ご卒業された方は、北海道学習センターで66名、旭川サテライトスペースが8名、合わせて74名でございます。放送大学では、さまざまなバックグラウンドをお持ちの学生が学んでおります。日々の忙しい生活の中で、それぞれのペースで勉学を進め、卒業に係る所定の単位を修得してご卒業までたどり着いたことは素晴らしいことです。皆様の努力を称えたいと思います。また、勉学を支えていただきましたご家族や関係者の皆様にも、教職員を代表して感謝申し上げる次第です。

また、放送大学の6コース全てを卒業して名誉学生の称号を授与される方、あるいは3コース以上のコースを終えられて特別賞を得られた方々には、そのたゆまぬご努力に心より敬意を表したいと存じます。本当におめでとうございます。

放送大学には、高校新卒者から定年退職後に入学された方まで実に幅広い年代の学生が

学んでいます。年代の多様性を反映するように卒業後の進路もさまざまで、大学院へ進学する方、別のコースで勉学を継続する方、学位の取得を機に社会で新たなキャリアを目指す方、あるいは初めて社会人となる方もいらっしゃるかもしれません。卒業後に皆様がご自分で選んだそれぞれの道を歩みながら、充実した人生を送ることを心より願っております。

皆様が在籍したこの数年間で、放送大学は教育 DX 推進の中期計画に則りウェブを活用した教育へと舵を切り始めました。2022 年度は単位認定試験のオンライン化、2023 年度はライブウェブ授業という新たな授業形態を開発・試行し、昨年度は教育情報システムの更新に合わせて BYOD 方式を導入したところです。このような教育の情報化の新たな試みは、導入直後は問題が続発することもありません。皆様も、慣れないシステムにご苦労された経験をお持ちかもしれません。ただトラブルシューティングの方策が共有されることで、次第に安定的なシステム運用へとつながっていくのが一般的で、放送大学の教育 DX の各試みも安心して利用できるように整備されてきました。

さて、学位記授与式の所長式辞では毎年、皆様への餞の言葉の代わりに、私たちの社会が抱える課題のひとつに焦点を当ててお話をしております。今年は「戦後 80 年」、昭和 100 年という節目の年でもありますので、「記憶」をテーマにお話をさせていただきます。

1945 年のポツダム宣言受諾から 80 年目を迎えて、戦没者慰霊祭をはじめ各地で様々なイベントが開催され、またマスメディアでも戦後 80 年の特集企画が組まれています。その多くで、「記憶の継承」がテーマとなっています。戦争経験者を起点にすると、すでに三世代分の時が経過しており、体験の聞き取りができるチャンスも残り少なくなっています。戦争経験のあるご存命の方たちが少なくなる中で、戦争の記憶に関して、何をどのように後世に伝えていくのが、残された時間の中で切迫した課題になっています。今日は、戦争の記憶の継承について、私たちが後世に伝えなくてはいけないのは何なのか、という問題を皆さんと考えてみましょう。

日本社会が戦争を回顧する際に、何に焦点を当ててきたかについては、その代表例と思われる 8 月の戦争・平和報道、いわゆる「8 月ジャーナリズム」を参照するのがよいでしょう。メディア研究者の米倉律さんは、8 月ジャーナリズムにおけるナラティブの類型化を試みているのですが、その作業を通じて被爆体験者や戦地に赴いた兵士たちの犠牲を中心とした「受難の語り」が圧倒的に優位であることを見つけ出しました。そして、その分析を踏まえて、尊い犠牲を礎に廃墟から立ち上がり平和と繁栄を手にしたという「建国神話」が日本社会の「集合的記憶」となったのだと主張しています。このような建国神話がひとたび集合的記憶として共有されると、それは戦争体験者にとっては、ある意味で抑圧的に作用することがある点に留意する必要があります。戦争の記憶は、被害の記憶であれ加害の記憶であれ、体験した本人にとっては意識の底に沈めておきたい辛い思い出でしょう。彼ら・彼女ら

が、戦後の経済復興の中でリアリティを獲得していった建国神話を頼みにして、自分自身の物語を語る機会を先送りにしたとしても、それは至極当然なことであつたと思われます。ただ散発的にですが、8月ジャーナリズムにおけるナラティブを相対化するような自己物語が、年老いた戦争体験者の口から語られることがあります。そのような語りを丁寧に聞き取り、ひとつの映像作品としてまとめたドキュメンタリー映画「黒川の女たち」に触れたいと思います。札幌においても8月に公開され、メディア等でも話題になりましたので、ご覧になった方もいるのではないのでしょうか。

このドキュメンタリーは、戦前、旧満州に岐阜県旧黒川村から入植した黒川開拓団の女性たちが被った被害とそこからの回復をテーマとしたものです。ソ連の満州侵攻にともない、満蒙開拓団の入植地が次々と占拠される中で、黒川開拓団幹部は入植した仲間たちの身の安全と引き換えに、若い未婚の女性15人をソ連兵へと「性接待」に差し出すという取引を行いました。この事実は、日本に引き揚げた後も口外することは禁じられ、スケープゴートとなった彼女たちも沈黙を強いられてきたそうです。

しかし、そのうちのひとり佐藤ハルエさんが93歳になった時、地元の証言集会に登壇し、この被害を告白しました。2018年のことです。このことは全国紙でも報じられました。この映画の監督であるテレビ朝日の松原文枝さんは記事を読み、掲載されていたハルエさんの顔写真のゆるぎない決意の表情に釘付けになり、彼女を取材しようと決めます。松原さんは、ハルエさんはじめ存命している何名かの被害女性、そしてすでに息子世代となった遺族会の男性たちの姿を追いながらこのドキュメンタリーを完成させました。ドキュメンタリーの中で、彼女たちが自分たちの戦争被害を「なかったことにはできない」と、決死の思いで告白する姿は観る者の心を打ちます。子や孫など家族がおばあちゃんの生き様を知り、この事実を静かに受容する中で、彼女たちは数十年にわたる抑圧から自らを解放することで、失いかけた人生を取り戻し、尊厳を回復していきます。被害体験の屈辱感を平和への強い意志へと昇華させようとする誇り高き試みは、多くの人たちに過去から学ぶことへの勇気と希望を与えてくれます。

マスメディアが主導してきた8月ジャーナリズムは、長崎新聞の「私の被爆ノート」のように被爆者の証言を30年近くにわたり丹念に集めて公開している貴重な試みは確かにあるものの、記憶の継承自体が自己目的化するなかで、次第に形骸化していると指摘する声も少なくありません。「記憶の継承」や「平和と繁栄」というあたりさわりのないスローガンが、私たちの目を戦争の実像から逸らせてしまう可能性に自覚的でなくてははいけません。戦後80年を期に、「建国神話」からこぼれ落ちた人たちの声を集める努力こそが必要ではないのでしょうか。様々な形で戦争を体験した人々やその家族、それぞれが発する、矛盾を孕まざるを得ない多様な声を私たちの記憶として束ね、いわばポリフォニック（多声的）な記憶として後世に伝える努力を地道に重ねることが重要であると考えます。

今回は記憶、特に戦争の記憶の継承についてお話ししましたが、皆様が卒業後もこういった社会のアクチュアルな問題のどれか一つにでも関心を持ち続け、世代を超えて協力して取り組むことを大いに期待し、それを私からのお祝いの言葉に代えたいと思います。

本日はまことにおめでとうございます。

「ご卒業おめでとうございます」

放送大学北海道学習センター

事務長 山内 好子

卒業生、修了生の皆様、このたびはご卒業おめでとうございます。

9月27日（土）に北海道学習センター、旭川サテライトスペースで学位記授与式を行い、それぞれご出席いただいた皆様に、所長から学位記を手交いたしました。華やかな袴姿で参加してくださった方やご家族が列席された方もおられ、コロナ禍後の日常が戻ってきたことに、職員一同嬉しく思います。

在学中はコロナ禍により思うように学習が進まなかったり、ライブ web 授業やBYODの導入があったりと、放送大学の新たな学びのステージに戸惑われた方、仕事や家庭との両立の中で、学習時間を確保するのに苦心された方も多かったのではないかと思います。そのような状況の中でも、学ぶ意欲を持ち続け、一步一步前に進み、卒業、修了を迎えられた皆様の努力に心から敬意を表します。

卒業生・修了生の皆様のうち、別のコースや上位の課程に進まれ学びを続ける方、いったん放送大学を離れる方もいらっしゃいますが、放送大学は「いつでも 誰でも どこでも」学べる大学ですので、興味のある科目がございましたら、ぜひまた放送大学への再入学をご検討いただけると幸いです。

さて、北海道学習センターでは、独りでの学びを余儀なくされる学生の皆様へのサポートとして、先輩学生との橋渡しを目的とした交流会を企画しています。来る1月には若年学生交流会、2月には看護学士の学位取得を志す学生を対象とした交流会を開催予定で、それぞれの交流会では、OB・OGの皆様にもピア・サポートとしてお話を伺います。また、学友会が構築している「メタバースキャンパス」では、遠隔地の皆様にも学生同士やOB・OGとのコミュニケーションを通じて、新たな学習機会や学生同士の交流機会、そして学習センターを身近に感じてもらえる機会を提供していただいていますので、どなたでも“バーチャル学習センター”に立ち寄ってみてください。

メタバースキャンパスはこちらの URL から

<https://app.ovice.com/ws/meta2cp>



「卒業生の皆さんへ

～敬意の念をこめて～

学友会会長 石川 嘉保

ご卒業、誠におめでとうございます。後輩である現役学生の一人として、心からお祝い申し上げます。今年4月の「新入生の集い」で、私は先輩として挨拶の機会をいただきました。その際「放送大学で学ぶことは想像以上に大変です。どうか一人で抱え込まず、仲間との交流を力にして学びを続けてください」とお伝えしました。これは私自身の実感でもあります。だからこそ、この道を歩み切り、卒業に至られた皆さんに対しては、深い敬意を抱かずにはいられません。さらに皆さんは、コロナ禍という未曾有の困難も乗り越えられました。学習環境が制限され、人との交流も難しい時期にあっても学びを止めなかったことは、努力と忍耐の証であり、これからの人生を支える確かな自信となることでしょう。



ここで先輩方に二つお願いがあります。

ひとつは、バーチャル交流空間「メタバースキャンパス」での活動です。毎週木曜 20 時から一時間ほど「木曜交流会」を開いており、近況を語り合ったり学びの悩みを相談したりしています。全国各地から、時には海外からも参加のある息の長い集まりです。ぜひ先輩方にもご参加いただき、後輩への励ましをお願いできれば幸いです。アクセスは学友会ホームページのほか、学習センターホームページからも可能です。もうひとつは、学友会ホームページの「ブログ」への投稿です。昨年6月から始まり、日常のひとことを 300～400 字ほどで綴っていただいています。毎週日曜に更新を続けていますが、先輩方の“たわいない日常”が、後輩にとって大きな励ましになります。どうぞお気軽にご参加ください。

本日迎えられた達成を誇りに、放送大学で培った知識や経験を新たな道で存分に生かしてください。学びは終わることなく続いていきます。皆さんの未来が、さらに豊かで実り多いものとなりますよう、心からお祈り申し上げます。

北海道(ヒゲマ)



学友会ホームページ ⇒



〈学位記授与式の様子〉



＜卒業・修了お祝いの歌をプレゼント＞

＜学生サークルうたの会＞



＜祝う会の様子＞



＜卒業生より記念品贈呈の様子＞

山田所長へ卒業生
代表として佃チエ
子さんから寄贈図
書目録を贈呈



＜卒業された皆様から寄せられた喜びの「ひとこと」です＞

(写真は祝う会様子より)



《人間と文化コース》

石狩市 竹内節子

放送大学教養学部、一つ目のコース「心理と教育コース」を2023年9月30日に卒業しました。はじめて卒業を祝う会に参加し、同窓会の皆様方のあたたかいおもてなしに感謝し、卒業された皆様方から、たくさんの刺激をいただきました。

今回2つ目のコース「人間と文化コース」を卒業することができ、再度卒業を祝う会に参加することができ、とてもうれしく思っております。一つ目のコースの時は孤独な学生でしたが、卒業してからメタバースキャンパ



スに出会い、学生の皆様とつながっているという安心感があります。木曜日の20:00はひとつのルーティンになっています。私のメタバースキャンパスのアバターは「女の子」ですが、私自身もいつまでも女子学生でいたいと思っています。

《自然と環境コース》

札幌市 遠藤 久

2010（平成22）年9月に入学し、今回6コース目で最後の卒業です。定年退職後の放送大学入学当初から今回の卒業まで15年6ヶ月は本当に楽しい毎日でした。

今後は、従来と同じ大学での学習とは異なりますが、復習をした時学習を続けたいと思っています。



《

「第16回文化祭」

**キャンパスへ出かけよう！新しい仲間、まだ知らない自分に会いに。
Explore OUJ campus ! Your new journey begins here**

文化祭実行委員長 佐藤 恵

今年の文化祭は、リアル会場とメタバース会場を併用して開催しました。
実行委員会は、同窓会、公認サークル代表者、そして個人参加の学生で構成し、放送大学北海道学習センターとの共催で運営しました。
また、各会場は道民カレッジの連携講座として登録され、北海道教育委員会の後援をいただきました。さらに、札幌会場では札幌市教育委員会、帯広会場では帯広市教育委員会、旭川会場では旭川市教育委員会からも後援をいただきました。
以下に、文化祭の概要をご報告いたします。

個人作品・サークル展示

9月19日（金）13:00 から9月21日（日）16:00

展示会場を昨年までの会議室から参加型の展示に対応できる6F 小講義室に変更しました。

個人作品

3Dプリンターの実演、折り紙、アートフラワー、写真（鳥）、写真（ハロウィン）、四季の絵手紙、つるし飾り、雛飾り アイヌ文様の刺繍が出品されました。

初日13:00～14:30に行われた「中川一子さんと作る布小物づくり ～ほっこり チクチク～」は当日参加もあり予定の人数を超える11名が参加。中川さんが布、縫い針、待針、糸、紐、中綿まで全て用意して下さり、針仕事が苦手な方も参加者同士が教えあう場面もあって、全員桃のつるし飾りを完成することが出来ました。

サークル展示

VR研究会のブースは10分程度の体験に行列が出来るほどで、30人以上の参加者があり連日賑わっていました。またヘルスサークルによる防災グッズの展示は実用的な内容で多くの方が見入っていました。英語サークルと学友会は模造紙1枚に日頃の活動内容を写真入りで紹介していました。

バザー

9月20日（土）11:00～17:00 （提供品受付 前日 11:00～15:00）

5Fエレベーター前で行われたバザー。昨年からの提供品の呼びかけが功を奏しバラエティ豊かな品々が並びました。中でもエコバッグ、タオル、ふきん、石鹸など消耗品は早々と売れ、1,000円以上の値が付いた品々には「応相談」の表示で販売の工夫が見られました。

自学研究発表

9月19日（金）14:30～16:00 リアル会場 14名、メタバース会場 3名

自学発表サークルとのコラボ企画で、6F会議室とメタバース同時中継で開催しました。身近な話題で「わかりやすい発表」と好評でした。

「仏教雑学 戒名ってな～に？」

発表者：石川 嘉保さん

「ヨーロッパのカフェ文化～その歴史とカフェ探訪記」

発表者：東 幸兵さん

講演会

9月20日（土）13:00～14:45 大講義室 51名参加

テーマ 「光で測る、光ると分かる ～ 生物と化学の発光現象とその応用」

「発光の仕組み」を知り光りを「測る」技術活用！

講師 谷 博文先生 北大工学部 准教授（分析化学）

面接授業でお馴染みの先生で、100円ショップで調達した材料で簡単な実験を採り入れながらの講演でした。分かりやすい語り口で、講演後の質問にも丁寧に回答していらっしゃいました。

ステージ発表

9月20日（土）15:00～16:45 大講義室

コーヒータイムを挟んでステージ発表が始まりました。

1. 北海道大学落語研究会 カス亭ラーさん

演目は当初一席でしたが講演会が少し早めに終わったので、急遽依頼したところ時間調整で二席やってくれました。参加者の中には「落語を聞きに来た」という方もいらっしゃいました。

2. フランス語サークル

昨年 BGM を背景にして好評で、今年は映像を加えさらに情感豊かに「愛の賛歌」を発表しました。

3. 中川俊二さん

宮沢賢治作品朗読 「まなづる と ダアリア」

今回は BGM と映像をバックにした朗読で作品に引き込まれました。

4. うたの会

放送大学校歌、もみじ、喜びの歌、北海道放送大学賛歌（全国の学習センターで独自の曲を持つのは北海道だけ）の4曲を演奏。

5. 語学研究会

「AI で広がる英会話の学び」 は「アメリカ英語を聞き取ろうー発音&リズムレッスンー」A4 サイズ1枚の紙資料と映像で新しいサークル活動形態を紹介していました。

映画会

型破りな教室 2023 年メキシコ映画

犯罪が蔓延するアメリカとメキシコの国境の町にある学力最底辺の小学校に赴任した教師が、ある方法で生徒の好奇心と可能性を引き出し全国トップに導いた2011年の実話に基づく作品。

昨年札幌会場は大講義室1回定員80名で開催したところ、字幕が下にあり見づらい席があったこと、音響装置が前にしかなく後方が聞こえづらいとの反省から定員を減らし2回の上映にしました」。

札幌 9月21日（日） 1回目：10:30～12:40 中講義室 31名参加

2回目：13:00～15:10 大講義室 35名参加

旭川 9月14日（日）13:00～15:30 旭川市中央図書館 27名参加

帯広 9月23日（火）13:00～15:30 とかちプラザ2階視聴覚室 27名参加

メタバース会場

9月19日（金）～10月20日迄

講演会、発表会の中継のほか、サークル紹介や個人作品が、期間中展示されました。

メタバース交流会などに参加している全国各地の学生にも、活動紹介できたようです。

今年は先輩から引き継いだノウハウに新しい企画が加わり、より内容豊かな文化祭になったと思います。来年もぜひ皆様のご協力をいただきたくお願い申し上げます。

第21回放送大学研究発表会開催

日 時： 2025 年 11 月 22 日(土) 受付 12:30 開始 13:00-17:00

会 場：放送大学北海道学習センター 6F 大講義室 / Zoom 同時配信
札幌市北区北 17 条西 8 丁目北大構内(地下鉄北 18 条駅から徒歩 10 分～15 分)

主 催：第 21 回放送大学研究発表会実行委員会 共 催：放送大学北海道学習センター
後 援：北海道教育委員会・札幌市教育委員会 参加費：無料

記念講演：「メディアと社会的リアリティの再帰性について」

講 師 放送大学北海道学習センター客員教員 鈴木 純 一 氏

【概 要】

我々は世界や社会環境を「メディア(マスメディア、ネット、SNS 等を含む)」を通して認知します。むろん、常に「事実(＝真実?)」が伝えられているとは限りません。意図的な二セ情報かもしれません。近年、このような疑念は極めて強く意識されるようになりました。ただし、このような疑念自体も、多くの場合、「メディア」を介して喚起されてきたものです。他方、思想史に目を向ければ、我々の生活の支えとなっている背景知＝「リアリティ」も、社会的に「構築」され共有されたものであると考えられるようになってきました。とはいえ、このような思想そのものも、やはり「構築」されたものと見なされることになります。「メディア」や「知」が本来もつ(もたざるをえない)このような再帰的特徴に今回は着目し、具体的かつ理論的に展開してみます。そして、変化しつつある現代メディア社会を考える際に、この観点からどのような視界が拓けてくるかについて、皆さんと一緒に探ることができれば、と考えています。



講師プロフィール

本年 3 月まで北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院特任教授。
専門はドイツ語圏を中心とする社会思想・美学・文学。
現在は放送大学北海道学習センター客員教員。北海道大学名誉教授。

放送大学 研究発表

発表 1 テーマ 「現代におけるアーバニズム論の展開について」

放送大学大学院文化科学研究科 博士後期課程 在学中 熊 谷 寿 二 氏

発表 2 テーマ 「漢詩と公共空間―五日市学芸講談会の考察―」

放送大学教養学部 人間と文化コース 在学中 谷 口 玲 子 氏

2025年11月22日 放送大学北海道学習センター
研究発表会 講演

メディアと社会的リアリティ の再帰性について

メディアによって構築される世界、生活背景、リアリティ
ーコミュニケーションの自己再生産という視点から

北海道学習センター客員教員 鈴木 純一

1

0. はじめに(1)

1. はじめに

2. 「メディア」ということば

「それ自身ではないもの＝代わりのもの」＝言語、新聞、本、ラジオ、
テレビ、ネット……。では、その役割（機能）とは？

3. 「再帰性」ということば

主語（主体）と目的語（対象）の一致ー自己言及、自己再生産・・・
※「相互性」は主語と目的語の（相互）入れ替え。

2

0. はじめに(2)

4. 「社会」ということば

複数の人々の存在？では、人々のどのような関係性？

5. マスメディアとネットメディア(SNS)は同じか、違うか？

問：機能的に断絶しているのか、連続しているのか？

観点ーコミュニケーションの双方向性？、同時性？、パーソナル
性？、グローバル性？、信頼性？、共創性？・・・それとも？

3

0. はじめに(3)

・今回の話の流れ

- ・<1>世界認知の「疑似環境」としての（マス）メディア
- ・<2>「想像の共同体」を創出する（マス）メディア
- ・<3>「公共圏」（公論形成）の場としての（マス）メディア
- ・<4>二次観察とメタレベルー観察を観察するということ
- ・<5>社会的リアリティの再帰性と相互性
- ・<6>マスメディアとネット・コミュニケーション
- ・<7>構築される世界と向き合う

4

<1>世界認知の「疑似環境」としての(マス)メディア(1)

- ・疑似環境とは？
- ・リップマン『世論』（原著1922/邦訳1987、掛川トミ子訳、岩波文庫）
- ・「（・・・）ここにあげたすべての事例に共通する一つの要素にとくに着目したい。それは、人と、その人をとりまく状況の間に一種の疑似環境が入り込んでいることである。人の行動はこの疑似環境に対する一つの反応である。」（29頁）
- ・「（・・・）こうした問題が起きるのも真の環境があまりに大きく、あまりに複雑で、あまりに移ろいやすいために、直接知ることができないからである。（・・・）それをより単純なモデルに基づいて再構成してからでないと、うまく対処していくことができないのだ。」（31頁）

5

<1>世界認知の「疑似環境」としての(マス)メディア(2)

- ・「疑似環境」を様式化するとー「ステレオタイプ」へ。（ルーマンでは「複雑性の縮減」）
- ・一安定的な「疑似環境」（≒「ステレオタイプ」）を供給するものとしてのマスメディア。
- ・一メディア（疑似環境）が再帰的にメディア（疑似環境）に反応する循環構造へ。

6

<2>「想像の共同体」を創出する(マス)メディア(1)

- ・近代の共同体意識はどのように生まれたか？ 例：国民国家
- ・ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体』（原著1983/邦訳初版1987年、白石隆他訳、リプロポート）
- ・「積極的な意味で、この新しい共同体の想像を可能にしたのは、生産システムと生産関係（資本主義）、コミュニケーション技術（印刷・出版）、そして人間の言語的な多様性という宿命性との間の、なかなかに偶然の、しかし、爆発的な相互作用であった。」（82頁）
- ・「出版によって結び付けられたこれらの読者同胞は、こうして、その世俗的で、特定で、可視的な不可視性において、国民的なものと想像される共同体の胚を形成したのである。」（84頁）

7

<2>「想像の共同体」を創出する(マス)メディア(2)

- 『想像の共同体』：国民国家とナショナリズムの成り立ちを説明する古典的な名著で、現在でも大きな影響力。
- ・中心となるのは出版資本主義＝メディアの近代化。
- ・言語的共同体の形成と出版技術の進化（新聞・小説等の一般化）。
- ・結果として、見知らぬものどうし（読者同胞）の共同体意識の出現。
- ・さらに「了解の相互予期」による社会的リアリティ＝メディア（疑似環境）の再帰的な循環構造の成立。

8

<2>「想像の共同体」を創出する(マス)メディア(3)

この「共同体」の展開として

- ・マーシャル・マクルーハン：拡張するメディアによる「地球村」共同体。
- ・チャールズ・テイラー：宗教なき近代における「社会と国家」の想像

9

<3>公共圏(公論形成)の場としての(マス)メディア(1)

- ・公共圏＝近代市民社会の意思形成の場。その成立と歴史的变化。
- ・ハーバマス『公共性の構造転換』（原著1962/邦訳初版1973、細谷貞雄他訳、未来社）
- ・「公共性の原理の機能変化は、公共性の圏そのものの構造の変化にもとづいている。この点を、公共性の主要な機関である新聞の変遷に沿って辿ることができる。」（249頁）
- ・「新聞はたんなる通信発行施設から、公論を担い導く機関ともなり、政党政治の闘争手段ともなった。（・・・）それは新情報の販売人から公論の取引人になるという意義を持っている。」（250頁）

10

<3>公共圏(公論形成)の場としての(マス)メディア(2)

しかし大きな「構造転換」が生じる

→

- ・「やがて、新聞は今やその論争的立場から、商業的経営としての営利機会を重視する。（・・・）広告業務が損益計算の新しい基盤を可能にした。」（252頁）
- ・「消費者たちは、自分たちが論議する民間人として世論の形成に参加しているような、廣の意識によって媒介されている。」（262頁）

11

<3>公共圏(公論形成)の場としての(マス)メディア(3)

- ・具現的（封建的）公共圏→「市民的公共圏」（中心）→操作的公共圏という歴史的構造変化。
- ・本来の理念・原則・規範は「平等性」「公開性」「自律性」。
- ・ところが「広報・広告を中心とする(マス)メディアの商業化により、公共圏は操作的なものへと変化してしまった」というハーバマスの批判はいまでも妥当？

12

<3>公共圏(公論形成)の場としての(マス)メディア(4)

公共圏の現代における批判的な継承。

- ・オルタナティブ公共圏（マイノリティ公共圏）
→「避難所でありコミュニケーションの訓練場でもある」。
- ・他にも、環境対策公共圏、地域公共圏、町内会公共圏・・・。
- ・あるいは、リスク、災害情報、障がい者、シニア、労働者問題等々の「コミュニケーション・コミュニティ」としての公共圏。

13

<4>二次観察とメタレベル観察を観察すること(1)

ここで少し理論的な深堀を：

- ・「オブジェクトレベルとメタレベル」ということば。
- ・オブジェクトレベルの観察＝「対象」の観察＝一次観察（≡事実性・リアリティ・客観性への志向性？）。
- ・メタレベルの観察＝『「対象」の観察』の観察＝二次観察（≡解釈・評価・価値判断・主観性への志向性？）。

14

<4>二次観察とメタレベル観察を観察すること(2)

ではマスメディアの観察は？それを観察するメディア（オーディエンス）の観察は？

- ・基本的にマスメディアの観察はオブジェクトレベルの観察（取材、聴取、現場視察等）＝「対象」の（疑似直接的）観察＝一次観察。
- ・オーディエンスの観察はメタレベルの観察＝『（マスメディアによる）「対象」の観察』の観察＝二次観察。
- ・すなわちマスメディアは安定的な（背景となる）世界の「一次観察（≡事実性・リアリティ・客観性志向）」を社会的に提供する。
- ・一方、オーディエンスは、マスメディアから安定的に供給され共有される「二次観察（≡事実性・リアリティ・客観性志向）」をもとに、疑似的に主観的な判断をする。

15

<4>二次観察とメタレベル観察を観察すること(3)

- ★理論的な精緻な展開として：ルーマン『マスメディアのリアリティ』（原著1996/邦訳2005、林香里訳、木鐸社）に基づいて。
- ・マスメディア：①技術的な複製により、②同一の（一次観察の）情報を、③不特定多数の人々へ、④一方的に伝える、メディア。
- ・すべて、一般に、共有される安定的な「社会的リアリティ」を提供し、人々のコミュニケーションの前提である「背景知」となるための条件。
- ・「決定的なのは、送り手と受け手の関係で同時に存在している者たちどうしのインタラクションというものが発生していない、ということである」（9頁）

16

<4>二次観察とメタレベル—観察を観察するということ(4)

- ・※ルーマン『マスメディアのリアリティ』（原著1996/邦訳2005、林香里訳、木鐸社）から。
- ・「それゆえに、マスメディアは、リアリティを構築しなければならない」（13頁）
- ・「私たちは（社会学者として）そうしたリアリティ構築のリアリティをどのように記述できるだろうか？その問いは、マスメディアがその記述の仕方によってリアリティをどのように歪めているか、ということが本来的な目的ではない。」（16頁）
- ・ニュース構築のための選択基準：①意外性、②コンフリクト、③量、④地域性、⑤規則違反、⑥モラル、⑦人物、⑧時事性、⑨意見表明、等々の要素＝オーディエンスの欲望の反映でも。真実性は要請に基づく付随的条件。（48～59頁）

17

<4>二次観察とメタレベル—観察を観察するということ(5)

- ・※ルーマン『マスメディアのリアリティ』（原著1996/邦訳2005、林香里訳、木鐸社）から。—マスメディアの効果的機能として
- ・①社会的時間の創出、②想起と忘却による社会的記憶の操作、③価値観と日常の標準化、④「問題」の発見と「解決」への誘導、⑤共同体としての経験の一般化、等。
- ・「マスメディアが世界はどのように読まれるべきか（≒意味化されるか）という様式を決定している。」（118頁）
- ・「マスメディアの機能とは、結局、社会システムの自己観察の司令塔だという点にある。」（143頁）
- ・これらすべては（マス）メディアが生むものに（マス）メディアが反応する再帰的循環構造＝自己再生産（オートポイエーシス）システムへ。

18

<5>社会的リアリティの再帰性と相互性(1)

※このようにして生み出され続ける「社会的リアリティ」に関して、二つの決定的に重要なこと。①再帰性と②相互性。

- ・①再帰性＝情報・社会的リアリティの継続による再生産。
- ・「社会は後続のコミュニケーションにおいて前提となることができる対象の（メディアによる）生成を基礎にしている。（・・・）対象とは、（メディア）コミュニケーションの再帰性から生み出されるものである。」（147頁）
- ・簡潔に言えば、メディアが情報＝リアリティを生み（構築し）、それを前提としながらさらにメディアが情報＝リアリティを生み（構築し）だす再生産が、連続すること。

19

<5>社会的リアリティの再帰性と相互性(2)

※このようにして生み出され続ける「社会的リアリティ」に関して、二つの決定的に重要なこと。①再帰性と②相互性。

- ・②相互性＝メディアの構築する情報・社会的リアリティを人々が前提としていると相互に想像し合うこと。
- ・「意識システムの個別性にかかわらず、経験の共通性を互いに仮定し合わなければならない。」（121頁）
- ・簡潔に言えば、コミュニケーションの前提となっている背景知が、メディアが生み出す（構築する）情報＝リアリティであることと互いに想像し合っていること。

20

<6>マスメディアとネット・コミュニケーション(1)

※もともとの問い：メディアの機能(役割)に関して「マスメディアとネットメディア(SNS)は同じか、違うか？」

- ・問：機能的に断絶しているのか、連続しているのか？
- ・観点＝双方向性？、同時性？、パーソナル性？、グローバル性？、信頼性？、共創性？・・・それとも？
- ・社会的リアリティ構築の再帰性・相互性の観点から考えると？

21

<6>マスメディアとネット・コミュニケーション(2)

※①再帰性の観点から：

- ・ネットには強い再帰性はあるが、そのルートは極めて細分化。
- ・ゆえに安定的共有としての社会的リアリティ構築は難しい？

※②相互性の観点から：

- ・ネットは相互性としての社会的リアリティは期待できない。
- ・しかし、そのツールの特性から、①技術的な複製により、②同一の（二次観察の）情報を③不特定多数の人々へ、④一方向的に伝える、マスメディアの機能を消極的に持つ。
- ・このことから安定的な社会的再帰性＝リアリティとなる相互性と再生産を「装う」ことができるのでは？

22

<7>メディアによって構築される世界と向き合う

※それでは「メディアによるリアリティ」の再帰性・相互性が不安定になった現代社会と向き合うには？

- ・メディア・リテラシー？ファクト・チェック？
- ・むろんそれは必要不可欠。その教育の重要性は疑いない。
- ・※さらには、あるいは、それ以上に
- ・「メディアによるリアリティ」が前提であることの意識。
- ・ただし「マスメディアによる社会的リアリティ」ではない。
- ・情報のより自由な世界を得た分、代償としてより高いリスク？
- ・※AI＝高度なメディアの自己再生産？これが暗示するものとは？

23

主要参考図書

- ・ウォルター・リップマン『世論』（原著1922/邦訳1987、掛川トミ子訳、岩波文庫）
- ・ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体』（原著1983/邦訳初版1987年、白石隆他訳、リポポート）
- ・ユルゲン・ハーバマス『公共性の構造転換』（原著1962/邦訳初版1973、細谷貞雄他訳、未来社）
- ・ニクラス・ルーマン『マスメディアのリアリティ』（原著1996/邦訳2005、林香里訳、木鐸社）
- ・佐藤俊樹『メディアと社会の連環』（2023、東京大学出版会）

24

発表1 テーマ 「現代におけるアーバニズム論の展開について」

放送大学大学院文化科学研究科 博士後期課程 在学中 熊谷 寿二 氏

現代におけるアーバニズム論の展開について

熊谷 寿二
放送大学大学院 文化科学研究科
社会経済科学プログラム 博士後期課程

自身の研究領域について

都市社会学について

社会学は、人間と社会の関係や、集団・組織を研究する学問で、人間の行為、集団・社会関係、社会構造などが研究の対象。

都市社会学は、社会学のなかで、都市に固有の現象を扱う、都市の形態と生活の性質が変化しているなかでどのような現象が起きているかを検討する領域。

自分は、都市社会学の領域のなかで都市に特徴的に現れる、アーバニズムと言われる生活様式について研究を行っています。

本日の報告内容

- ・本日の報告の目的
- ・第1章 古典的アーバニズム論
- ・第2章 21世紀の都市論
- ・第3章 新しい都市理論の展開
- ・第4章 現代都市におけるアーバニズム論
- ・おわりに

本日の報告の目的

- ・ルイス・ワースが「生活様式としてのアーバニズム」として1938年に提起したアーバニズム論。
- ・英語圏においては、ワースの提起後フィッシャーに至るまで、独立変数としての構成と効果についての議論として収束した。
- ・日本においては、倉沢進の「都市的生活様式」として展開。
- ・ワースのアーバニズム論から100年、近年のアーバニゼーションに伴う、アーバニズム論に関する英語圏の議論が日本の文脈へ適用可能かどうか探ることを本報告の目的としたい。

第1章 古典的アーバニズム論

シカゴ学派と都市社会学

シカゴの急激な人口増加（主にヨーロッパからの移民）
1840年 4,470人 ⇒ 1930年 3,376,000人 90年で約756倍
異なる言語・文化・慣習・格差 ⇒ 社会問題を発生

都市の社会問題の研究・課題解決 ⇒ シカゴ大学設立（1890年）
R.E.パーク 人間生態学的視点「実験室としての都市」
都市コミュニティ研究 ⇒ モノグラフ（社会調査研究論文）

都市に関する社会科学的研究に取り組む ⇒ シカゴ学派

ワースのアーバニズム論とそれに対する批判

ワースのアーバニズム論

都市の要素 ⇒ 「人口・密度・異質性」の三項目
人口・密度の増大⇒異質性が高まる⇒第二次的接触>第一次的接触
社会解体 ⇒ コミュニティの解体
「都市」を独立変数 「生活様式としてのアーバニズム」を従属変数

ホワイト
ボストン イタリアン・スラム
アクセルロッド
デトロイト 社会調査
コミュニティ ⇒ 存在する

ガンズ
住民の社会構成⇒生活様式に影響
社会構成理論
「都市」の効果 ⇒ 否定する
（都市が独立変数とは限らない）

下位文化理論（シカゴ学派）対 新都市社会学派

フィッシャー（1975）

生態学的立場（シカゴ学派） 規模と密度を変数（都市を独立変数）
逸脱を含めた非通念性 ⇒ 下位文化（従属変数）
下位文化理論：ワースのアーバニズム論を引き継ぐ

論争

ネオマルクス主義者（新都市社会学派）
「資本主義」を独立変数「都市」を従属変数

マルクス主義的アプローチ（新都市社会学派） 認められる
生態学的アプローチ（シカゴ学派） 認められる
シカゴ学派⇒都市社会学の「正統派」として認知
「都市」⇒「境界に囲われた」領域としての議論にとどまる

日本における古典的アーバニズム論の展開

- ・近江哲男、倉沢進、鈴木広、鈴木栄太郎、奥田道大などが日本の都市化過程にワースのアーバニズム論が適用可能かどうか検討を行った。
- ・倉沢進が『都市的生活様式論序説』（1977）において

「生活上の諸問題を共同的社会の相互扶助により解決される村落的生活様式に対して性質を異にする、諸問題の問題処理を専門機関による解決にゆだねることが都市的生活様式である」

とし、都市的生活様式の効果として、地域における人間関係の縮小が生ずる点を説明したことで収束したと考える

ロビンソンの視点から捉えたアーバニズム

- ・アーバニズムに関する比較の視点
 - 比較都市主義（コンパラティブ・アーバニズム）
 - 比較的類似した都市間で共有された経験が分析の基礎を形成する
 - どんな領域がアーバンなのか考えることが重要
 - アーバン研究の単位（ユニット）の捉え方
 - 都市より小さなスケール（都市の内部）を対象
 - 外から中の視点、広大に拡張する周縁部を対象
 - 各地域の独自のアーバニズム、都市に住む人びとの生活のあり方を比較の手法を用いて捉える
 - ワースが普遍的に捉えたアーバニズムを、コンパラティブな視点で個性あるものとして捉える
- アーバニズムを、一定の場所における人々の社会生活の関係の中で現れる現象として捉える自身の関心に近い、ロビンソンの議論をもとにアーバニズムの現代的展開の検討を行いたい。

ロビンソンの視点による事例 I

- ジャネット・アブルゴード「ニューヨーク・カイロの比較」
- ニューヨークはシカゴよりカイロと似ている
- ストリートレベルでの服装と生活状況（狭い区域）
- 服装は所属集団を示す ⇒ 住所より社会的場所を示す（ファッションではない）
- 路上利用 ⇒ 露店・屋台・路上生活者の存在（買う・食べる・祈る・寝る）
- 経済的側面 スイスコングの影響（スイスとホンコンの金融資本）
- ニューヨーク サービス業と小規模産業中心（シカゴは大規模産業）
- 両都市ともスエットショップ（搾取工場）が存在（NYは移民が継承）
- 都市の内部（ストリート）にあらわれる、階層、人種、貧困、服装があらわす所属集団・路上生活・近隣地区の関係を明らかにした。
- 個々の地域の個性、多様性による生活様式（アーバニズム）の抽出事例

ロビンソンの視点による事例 II

- アメリア・チョプリン「西アフリカ回廊のセメント循環軌跡の追跡研究」
- ラゴスからアビジャンまで5か国6都市を結ぶ回廊の建築原料循環の調査
- アーバン建築原料（セメント袋）の追跡 ⇒ 資本循環が不動産として固定
- トラックの運搬経路の追跡 ⇒ アーバン形態、都市の接続状況を視覚化
- セメント貯蔵庫を地図化 ⇒ アーバニゼーション拡張過程を視覚化
- 電線への不法な接続：蜘蛛の巣状・ソーラーパネル・私立学校・福音教会
- ⇒ 段階的なアーバニゼーションの兆候（貧困地区での設置表示）
- コンテナでの携帯電話販売・モバイルバンク化 ⇒ 第三次産業とアーバン成長の関連
- アーバン建築原料の追跡することにより、階層、生活、インフラ整備状況を副次的に抽出し、周縁部に現れるアーバニズムをプラネタリーなアーバニゼーションの中で位置づけた事例

参考資料（アメリア・チョプリン 段階的なアーバニゼーション）



spiderwebs
（蜘蛛の巣状の電線）



container-outlets for mobile phone
（コンテナ利用の携帯電話販売）

ロビンソンの視点から捉えたアーバニズム

- ・アーバニズムに関する比較の視点
 - 比較都市主義（コンパラティブ・アーバニズム）
 - 比較的類似した都市間で共有された経験が分析の基礎を形成する
 - どんな領域がアーバンなのか考えることが重要
 - アーバン研究の単位（ユニット）の捉え方
 - 都市より小さなスケール（都市の内部）を対象
 - 外から中の視点、広大に拡張する周縁部を対象
 - 各地域の独自のアーバニズム、都市に住む人びとの生活のあり方を比較の手法を用いて捉える
 - ワースが普遍的に捉えたアーバニズムを、コンパラティブな視点で個性あるものとして捉える
- アーバニズムを、一定の場所における人々の社会生活の関係の中で現れる現象として捉える自身の関心に近い、ロビンソンの議論をもとにアーバニズムの現代的展開の検討を行いたい。

ロビンソンの視点による事例 I

- ジャネット・アブルゴード「ニューヨーク・カイロの比較」
- ニューヨークはシカゴよりカイロと似ている
- ストリートレベルでの服装と生活状況（狭い区域）
- 服装は所属集団を示す ⇒ 住所より社会的場所を示す（ファッションではない）
- 路上利用 ⇒ 露店・屋台・路上生活者の存在（買う・食べる・祈る・寝る）
- 経済的側面 スイスコングの影響（スイスとホンコンの金融資本）
- ニューヨーク サービス業と小規模産業中心（シカゴは大規模産業）
- 両都市ともスエットショップ（搾取工場）が存在（NYは移民が継承）
- 都市の内部（ストリート）にあらわれる、階層、人種、貧困、服装があらわす所属集団・路上生活・近隣地区の関係を明らかにした。
- 個々の地域の個性、多様性による生活様式（アーバニズム）の抽出事例

ロビンソンの視点による事例 II

- アメリア・チョプリン「西アフリカ回廊のセメント循環軌跡の追跡研究」
- ラゴスからアビジャンまで5か国6都市を結ぶ回廊の建築原料循環の調査
- アーバン建築原料（セメント袋）の追跡 ⇒ 資本循環が不動産として固定
- トラックの運搬経路の追跡 ⇒ アーバン形態、都市の接続状況を視覚化
- セメント貯蔵庫を地図化 ⇒ アーバニゼーション拡張過程を視覚化
- 電線への不法な接続：蜘蛛の巣状・ソーラーパネル・私立学校・福音教会
- ⇒ 段階的なアーバニゼーションの兆候（貧困地区での設置表示）
- コンテナでの携帯電話販売・モバイルバンク化 ⇒ 第三次産業とアーバン成長の関連
- アーバン建築原料の追跡することにより、階層、生活、インフラ整備状況を副次的に抽出し、周縁部に現れるアーバニズムをプラネタリーなアーバニゼーションの中で位置づけた事例

参考資料（アメリア・チョプリン 段階的なアーバニゼーション）



spiderwebs
（蜘蛛の巣状の電線）



container-outlets for mobile phone
（コンテナ利用の携帯電話販売）

おわりに

ワースの「生活様式としてのアーバンイズム」から近年の新しい都市理論までの議論をたどり、現代のアーバンイズムについて考察を行ってきた。

ワースはアーバンイズムを普遍的なものとしてとらえたが、100年を経過し複雑に変化する現代社会において、従来の都市理論どおりにあらわれてこない生活様式をアーバンイズムとして見出すための新しい視点が必要。

ロビンソンのポストコロニアル視点による、特定の地域と都市にあらわれるアーバンイズムを、プレナーのいうプラネタリーな状況のなかで位置づけることが重要。

グローバル化の経済的側面に加え、アジアを中心とする多様な外国人の移入による側面も日本の社会に影響を与えている。ロビンソンの、アーバンイズムをアーバンゼーションの中で个性的に独自の生活のあり方として比較の手法で捉える視点で光を当て日本の文脈に適用することにより、アーバンイズムの現代的展開として捉えることを今後の課題としたい。

主な参考文献

- Armelle, Choplin, 2024, "Tracing Materials to Locate the Urban: The West African Corridor from Lagos to Abidjan" *The Routledge Handbook of Comparative Global Urban Studies*: Routledge.
- 今井道康, 1974, 「都市計画」 *アンリ・ルフェーブル*、藤文社。
- Fraser, Claude S., 1975, "Toward a Sociological Theory of Urbanism" *American Journal of Sociology*, 80(6):1319-1341: The University of Chicago Press.
- Fraser, Claude S., 1982, *To Dwell Among Friends: The University of Chicago Press*.
- 原田剛・平田浩, 2018, 「解讀：ポストモダン・アーバンゼーションをめぐって」『空間・社会・地域研究』大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科, 21:95-97.
- 平田浩・松田孝彦, 2018, 「都市計画?」『空間・社会・地域研究』大阪府立大学大学院人間社会システム研究科, 21:115-125.
- 平田浩, 2021, 「アーバンイズムの下位文化理論に向けて」『都市社会学セクション』日本評論社。
- Janet, Abu Lughod, 2024, "New York and Cairo: A View from Street Level" *The Routledge Handbook of Comparative Global Urban Studies*: Routledge.
- Jennifer, Robinson, 2006, *Ordinary Cities*: Routledge.
- Jennifer, Robinson, 2022, *Comparative Urbanism*: John Wiley & Sons Ltd.
- 豊田達, 1981, 「近現代の都市社会学」『社会学研究』日本社会学会 31 (4) : 14-31.
- 松本達, 1992, 「都市社会学のコンテクスト」『都市社会学のコンテクスト』日本評論社。
- 松本達, 2011, 「都市社会学としてのアーバンイズム」『都市社会学コンテクスト』日本評論社。
- 松本達, 2021, 「シカゴ学派の社会学」有斐閣。
- 佐藤清志・北川由紀子, 2018, 「都市と地域の社会学」筑波大学出版局。
- 松本和志, 2011, 「都市の社会学」筑波大学出版局。
- Neil, Brenner and Roger, Kelly, 2014, "From Global Cities to Globalized Urbanization" *Journal of Culture, Politics and Innovation*.
- Neil, Brenner, 2019, *New Urban Space*: Oxford University Press.
- 玉野和志, 2013, 「資本主義的経済の発展と地域発展の経緯」『大阪社会科学研究』No.56。
- 玉野和志, 2020, 「都市社会学を問ふのか」『都市社会学』世界都市研究。
- Wirth, Louis, 1938, "Urbanism as a Way of Life" *American Journal of Sociology*, 44(1):1-24: The University of Chicago Press.
- 吉岡貞樹, 2018, 「都市社会学」東京大学出版会。



発表 2 テーマ 「漢詩と公共空間—五日市学芸講談会の考察—」

放送大学教養学部 人間と文化コース 在学中

谷口 玲子 氏

漢詩と公共空間 —五日市学芸講談会の考察—

放送大学教養学部 人間と文化コース
谷口 玲子

写真は東京都あきる野市の石舟橋
東京都総務局 たま発！多摩の魅力発信プロジェクトHPより 1

自由民権運動とは？

- ・時代的背景
明治維新と諸改革⇒社会制度の変化、まさに驚天動地
「武士の子は武士に、農民の子は農民に」の時代から
「将来の選択」が出来る時代に
- ・幕府崩壊からわずか数十年後
自分たちの意見を政治に届けよう
自分たちの権利を守る憲法を作ろう
と立ち上がった人々の運動が自由民権運動

2

五日市学芸講談会とは？

- ・五日市学芸講談会とは、東京西部、五日市という山村で、新しい時代をどのように生きるかを考えた人々の集団
- ・昭和43年（1968年）色川大吉氏が深沢家の土蔵開け
- ・通称「五日市憲法」と資料が発見される
- ・「五日市憲法」とは、明治憲法発布前、五日市で起草された憲法草案



図1 深沢家の土蔵
（自由民権に輝いた青春
岸三郎・自由を求めたのたたい）
江井秀雄著 早稲田出版より

3

深沢家の土蔵から発見された「五日市憲法」

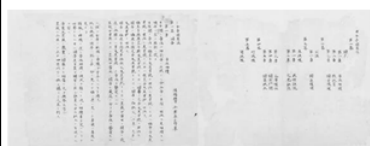
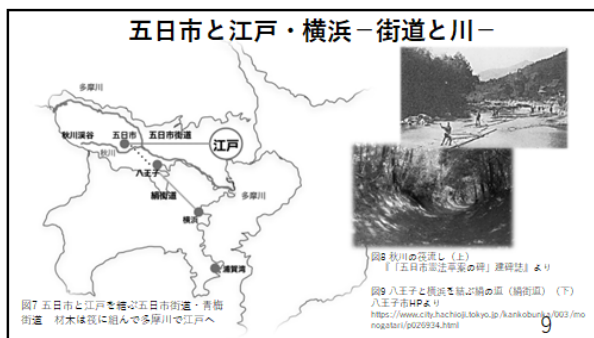


図2 「日本帝国憲法」(通称「五日市憲法」)
全204条からなる憲法草案
国民の権利の項目に多くの条文が削られている
あきる野市デジタルアーカイブより
<https://archives.library.akiruno.tokyo.jp/about/souan/hyouka/>



図3 「五日市憲法草案」と読み下し文
(一部)
五日市郷土館 常設展示で撮影

4



村の指導者としての豪農の知的欲求

江戸時代

- 五日市の定期市、貨幣経済の浸透
- 豪農は名主として指導力（実質支配は武士階級）
- 幅広い情報網⇒時代の変化に俊敏（旺盛な知的好奇心）

明治時代

- 豪農は名実ともに村の指導者
- 全国から若者が集まる
- 高まっていた豪農の知的欲求⇒学芸講談会の設立

図10 津久家土庫にあった黒船ステッカー

図11 津久家土庫にあった江戸の地図

図12 津久家土庫にあった江戸の地図

図13 津久家土庫にあった江戸の地図

図14 津久家土庫にあった江戸の地図

図15 津久家土庫にあった江戸の地図

図16 津久家土庫にあった江戸の地図

図17 津久家土庫にあった江戸の地図

図18 津久家土庫にあった江戸の地図

図19 津久家土庫にあった江戸の地図

図20 津久家土庫にあった江戸の地図

図21 津久家土庫にあった江戸の地図

図22 津久家土庫にあった江戸の地図

図23 津久家土庫にあった江戸の地図

図24 津久家土庫にあった江戸の地図

図25 津久家土庫にあった江戸の地図

図26 津久家土庫にあった江戸の地図

図27 津久家土庫にあった江戸の地図

図28 津久家土庫にあった江戸の地図

図29 津久家土庫にあった江戸の地図

図30 津久家土庫にあった江戸の地図

図31 津久家土庫にあった江戸の地図

図32 津久家土庫にあった江戸の地図

図33 津久家土庫にあった江戸の地図

図34 津久家土庫にあった江戸の地図

図35 津久家土庫にあった江戸の地図

図36 津久家土庫にあった江戸の地図

図37 津久家土庫にあった江戸の地図

図38 津久家土庫にあった江戸の地図

図39 津久家土庫にあった江戸の地図

図40 津久家土庫にあった江戸の地図

図41 津久家土庫にあった江戸の地図

図42 津久家土庫にあった江戸の地図

図43 津久家土庫にあった江戸の地図

図44 津久家土庫にあった江戸の地図

図45 津久家土庫にあった江戸の地図

図46 津久家土庫にあった江戸の地図

図47 津久家土庫にあった江戸の地図

図48 津久家土庫にあった江戸の地図

図49 津久家土庫にあった江戸の地図

図50 津久家土庫にあった江戸の地図

図51 津久家土庫にあった江戸の地図

図52 津久家土庫にあった江戸の地図

図53 津久家土庫にあった江戸の地図

図54 津久家土庫にあった江戸の地図

図55 津久家土庫にあった江戸の地図

図56 津久家土庫にあった江戸の地図

図57 津久家土庫にあった江戸の地図

図58 津久家土庫にあった江戸の地図

図59 津久家土庫にあった江戸の地図

図60 津久家土庫にあった江戸の地図

図61 津久家土庫にあった江戸の地図

図62 津久家土庫にあった江戸の地図

図63 津久家土庫にあった江戸の地図

図64 津久家土庫にあった江戸の地図

図65 津久家土庫にあった江戸の地図

図66 津久家土庫にあった江戸の地図

図67 津久家土庫にあった江戸の地図

図68 津久家土庫にあった江戸の地図

図69 津久家土庫にあった江戸の地図

図70 津久家土庫にあった江戸の地図

図71 津久家土庫にあった江戸の地図

図72 津久家土庫にあった江戸の地図

図73 津久家土庫にあった江戸の地図

図74 津久家土庫にあった江戸の地図

図75 津久家土庫にあった江戸の地図

図76 津久家土庫にあった江戸の地図

図77 津久家土庫にあった江戸の地図

図78 津久家土庫にあった江戸の地図

図79 津久家土庫にあった江戸の地図

図80 津久家土庫にあった江戸の地図

図81 津久家土庫にあった江戸の地図

図82 津久家土庫にあった江戸の地図

図83 津久家土庫にあった江戸の地図

図84 津久家土庫にあった江戸の地図

図85 津久家土庫にあった江戸の地図

図86 津久家土庫にあった江戸の地図

図87 津久家土庫にあった江戸の地図

図88 津久家土庫にあった江戸の地図

図89 津久家土庫にあった江戸の地図

図90 津久家土庫にあった江戸の地図

図91 津久家土庫にあった江戸の地図

図92 津久家土庫にあった江戸の地図

図93 津久家土庫にあった江戸の地図

図94 津久家土庫にあった江戸の地図

図95 津久家土庫にあった江戸の地図

図96 津久家土庫にあった江戸の地図

図97 津久家土庫にあった江戸の地図

図98 津久家土庫にあった江戸の地図

図99 津久家土庫にあった江戸の地図

図100 津久家土庫にあった江戸の地図

豊富な書籍 深沢家「私設図書館」

- 当時東京で出版されていた新刊書の7、8割が揃っていた
- 高価な翻訳本も（諸外国の憲法・法律の文献）
- 蔵書は会員に無料貸出
- 学芸講談会盟約第5条 会員ハ各自智識ノ進歩ヲ計ラン為メ本会ニ備ヘ置ク書籍ヲ閲読スルヲ得

図12 書籍購入記録ノート あきる野市デジタルアーカイブより <https://archives.library.akiiruno.tokyo.jp/gallery/>

豊富な書籍 深沢家「私設図書館」

- 「私設図書館」（総数三百七十冊ほど）
- 大部分が明治8年から17年にかけて出版されたもの
- 新聞縦覧所が五日市にも設置

図13 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図14 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図15 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図16 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図17 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図18 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図19 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図20 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図21 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図22 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図23 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図24 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図25 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図26 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図27 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図28 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図29 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図30 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図31 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図32 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図33 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図34 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図35 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図36 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図37 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図38 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図39 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図40 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図41 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図42 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図43 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図44 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図45 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図46 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図47 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図48 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図49 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図50 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図51 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図52 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図53 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図54 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図55 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図56 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図57 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図58 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図59 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図60 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図61 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図62 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図63 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図64 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図65 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図66 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図67 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図68 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図69 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図70 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図71 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図72 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図73 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図74 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図75 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図76 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図77 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図78 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図79 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図80 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図81 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図82 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図83 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図84 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図85 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図86 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図87 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図88 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図89 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図90 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図91 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図92 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図93 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図94 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図95 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図96 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図97 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図98 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図99 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

図100 深沢家「私設図書館」の蔵書の一部

研究動機

- 幕府崩壊からわずか数十年で、山あいの村、五日市でなぜ憲法草案が起草されたのか
- この驚きが研究動機に

図4 緑色が五日市（現あきる野市） 東京都総務局発行「たまあき」多摩の魅力発信プロジェクトHPより

図5 五日市（現あきる野市）の石舟橋

学芸講談会を「場」として考察

- 研究対象は五日市学芸講談会
- 従来の伝統的な村とは異なる集団
- 会員同士は対等、入退会自由
- 地縁で結ばれた村という集団からどのように離脱できたのか
- 学芸講談会を自由民権運動の活動組織としてではなく、「場」としてとらえれば、集まった人々が何を考え、何を目標として活動していたのかが見えてくるのではないかと

学芸講談会の活動と漢詩制作

- 漢詩制作という文化活動と、学芸講談会という政治活動は密接な関連にあった
- 1500首もの漢詩や何冊もの漢詩集
- 日々の感情を綴っただけには思えない
- 漢詩が作れたからこそ、学芸講談会の活動ができたのではないかと
- 漢詩に表現される思想は、他の民権家たちにも共有
- 漢詩は、学芸講談会の人々の精神にどのように作用したのか

五日市の主要産業－豪農はどのように蓄財したか－

- 五日市の主要産業
- 製炭業：江戸140万人の燃料・暖房として
- 林業：江戸時代から植林、筏を組み川を下って江戸へ
- 絹織物業：黒八丈が江戸で人気
- 横浜港開港後は、生糸が輸出される
- しだいに財をなした富裕農民＝豪農が誕生
- 豪農が主導して学芸講談会設立（明治13年頃）

図6 炭を運ぶ女性 山深い産地から炭の集積地に運ばれた炭は、舟に積まれて江戸に運ばれた 『産土あれこれ』第23号 五日市郷土館発行

「五日市に行けば無料で学べる」

- ・噂を聞きつけた「風雲の志」をもつ者が五日市へ集まる
- ・外来者を「よそ者」扱いせず受け入れ
- ・外来者と山村の指導者との出会い
→学芸講演会という「場」から新しい思想
- ・利光 鶴松（小田急電鉄創業者）
「予ハ読ムベキ書籍ニハ曾テ不自由ヲ感ジタルコトナシ」（『利光鶴松翁手記』）



13

どのような人が集ったのか

- ・学芸講演会の開催を知らせる案内状(回状)に30名の氏名
- ・漢詩集『鶯約鷗盟集』に記載された寄稿者の出身地は福岡、大分、近江、三河等
- ・五日市は全国から人を惹きつける磁場

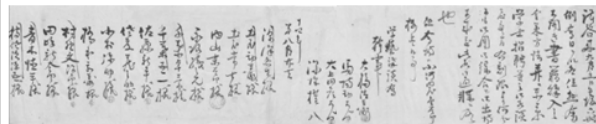


図14 講演会回状の付箋と回状書（一部） あきる野市デジタルアーカイブより
<https://archives.library.akiruno.tokyo.jp/gallery/>

14

表1 回状に記載された氏名より推測される学芸講演会参加者 年齢・役職等は明治13年当時

年齢	年齢	年齢	年齢	年齢	年齢
1 尾崎 龍太郎	44 五日市町長 尾崎 龍太郎	五日市町	尾崎 龍太郎	23 小中野村長 尾崎 龍太郎	小中野村
2 尾崎 龍太郎	46 五日市町長 尾崎 龍太郎	五日市町	尾崎 龍太郎	24 小中野村長 尾崎 龍太郎	小中野村
3 尾崎 龍太郎	47 五日市町長 尾崎 龍太郎	五日市町	尾崎 龍太郎	25 小中野村長 尾崎 龍太郎	小中野村
4 尾崎 龍太郎	48 五日市町長 尾崎 龍太郎	五日市町	尾崎 龍太郎	26 小中野村長 尾崎 龍太郎	小中野村
5 尾崎 龍太郎	49 五日市町長 尾崎 龍太郎	五日市町	尾崎 龍太郎	27 小中野村長 尾崎 龍太郎	小中野村
6 尾崎 龍太郎	50 五日市町長 尾崎 龍太郎	五日市町	尾崎 龍太郎	28 小中野村長 尾崎 龍太郎	小中野村
7 尾崎 龍太郎	51 五日市町長 尾崎 龍太郎	五日市町	尾崎 龍太郎	29 小中野村長 尾崎 龍太郎	小中野村
8 尾崎 龍太郎	52 五日市町長 尾崎 龍太郎	五日市町	尾崎 龍太郎	30 小中野村長 尾崎 龍太郎	小中野村
9 尾崎 龍太郎	53 五日市町長 尾崎 龍太郎	五日市町	尾崎 龍太郎	31 小中野村長 尾崎 龍太郎	小中野村
10 尾崎 龍太郎	54 五日市町長 尾崎 龍太郎	五日市町	尾崎 龍太郎	32 小中野村長 尾崎 龍太郎	小中野村
11 尾崎 龍太郎	55 五日市町長 尾崎 龍太郎	五日市町	尾崎 龍太郎	33 小中野村長 尾崎 龍太郎	小中野村
12 尾崎 龍太郎	56 五日市町長 尾崎 龍太郎	五日市町	尾崎 龍太郎	34 小中野村長 尾崎 龍太郎	小中野村
13 尾崎 龍太郎	57 五日市町長 尾崎 龍太郎	五日市町	尾崎 龍太郎	35 小中野村長 尾崎 龍太郎	小中野村
14 尾崎 龍太郎	58 五日市町長 尾崎 龍太郎	五日市町	尾崎 龍太郎	36 小中野村長 尾崎 龍太郎	小中野村
15 尾崎 龍太郎	59 五日市町長 尾崎 龍太郎	五日市町	尾崎 龍太郎	37 小中野村長 尾崎 龍太郎	小中野村

15

学芸講演会の活動－討論－

- ・学芸講演会規則
第二条 本会ハ万般ノ学芸ニ就テ講演演説或ハ討論シ以テ各自ノ智識ヲ交換シ気力ヲ興奮セン事ヲ要ス
- ・討論の難しさ
対等な立場、時に意見の対立
- ・県議会議員や討論の経験者が主導



図15 学芸講演会の「誓約」と「規則」
『五日市市史』第1巻より

16

深沢権八手録の「討論題集」

- ・深沢権八手録の「討論題集」 63の題目
自由ヲ得ルノ捷徑ハ智力ニアルカ将タ腕力ニアルカ

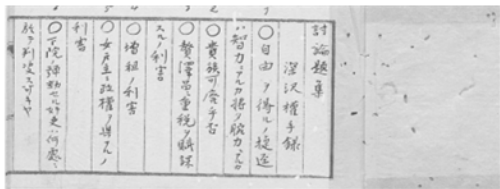


図16 深沢権八手録「討論題集」の一部
あきる野市デジタルアーカイブより <https://archives.library.akiruno.tokyo.jp/gallery/>

17

深沢権八手録の「討論題集」

- ・不治ノ患者カ苦痛ニ堪カネ死ヲ求ムル時ハ医員立会ノ上之ヲ薬殺ス可シトノ明文ヲ法律ニ掲クルノ可否

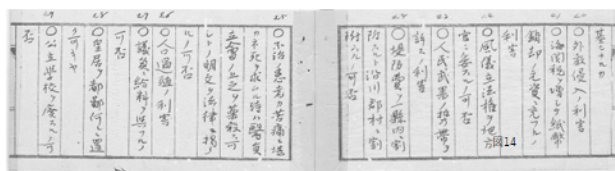


図17 深沢権八手録「討論題集」の一部
あきる野市デジタルアーカイブより <https://archives.library.akiruno.tokyo.jp/gallery/>

18

学芸講演会の活動－演説会－

- ・明治14年(1881年)7月3日五日市懇親会開催
来会する者無慮百名…永沼、千葉、深澤、佐藤、伊東の諸氏交々起て演説し…満堂拍手の音喝采の声暫し鳴りも止まず…(7月7日付『東京横浜毎日新聞』)
- ・明治14年(1881年)12月1日五日市懇親会開催
来集する者無量七八十名…同所の有志中巧みに演説をなす者数名…其原因を尋ねしに…毎月三回宛学術講演会を催ふし智弁を闡はし来り、昨今追々上達せし故なりと答へたるよし(12月4日付『東京横浜毎日新聞』)

19

公共空間としての学芸講演会

- ・ヨーロッパでは、コーヒーハウスで自由に意見交換
→公論(政治権力に影響力をもった)
コーヒーハウスは公論を生み出す公共空間として機能した
(J. ハーパーマス『公共性の構造転換』)
- ・学芸講演会はコーヒーハウスに類似した「場」
公論を生み出す可能性をもった公共空間として機能した
- ・都市ではなく山村に生まれた公共空間

20

学芸講談会における漢詩の影響

- ・漢詩交流会のさかんな活動
会員同士の親睦
有名な詩壇に添削依頼
同人誌投稿
- ・寄稿者の出身地、職業、年齢
はさまざま
- ・ほとんどが民権思想の持主

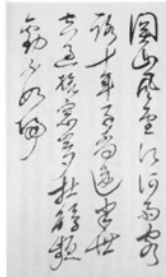


図18 五田市農芸会館蔵
たけやま三郎の漢詩
『自由民権に關したる書翰
三郎・自由を求めたが
たがたが』
江井秀雄著 草の根出版
会より

21

学芸講談会と漢詩との深い結びつき

- ・深沢権八の二つの顔
「自由樓主人学芸講談会幹事」
「以文会幹事天則堂主人」
- ・漢詩グループは情報交換の場
- ・神奈川県全域の民権家の漢詩愛好グループ
「小梅吟窓」との交流



22

漢文を学び、漢詩を制作するということ

- ・漢文は、中国の官僚階級や知識階級が使った書き言葉
- ・厳しい官僚登用試験
- ・漢詩は、政治家の精神世界を表現する手段
- ・江戸時代、武士は儒教を漢文で学んだ
- ・幕末の志士は、漢詩で悲憤慷慨（世の中や自分の運命などについて憤り悲しむこと）を表した
- ・漢文を学んだ豪農は、漢詩の精神性に共鳴し、新しい時代を生きようとした

23

時代の変化と漢学的教養の転換

- ・漢籍を棄てて新たな教養体系へ
「予ハ漢学塾ニ孔孟ノ教ヲ受ケ、其読ム所ノ書ハ漢籍ニ限ラ
レタリ 五田市ニ於テハ漢籍ヲ放棄シ ルーソー スペン
サー ベンサム ミル等ノ著書ノ翻訳ヲ耽読スルニ至レリ」
（『利光鶴松翁手記』）
- ・千葉卓三郎と深沢権八は、漢学の教養を持ち続けた

24

千葉卓三郎の遺言

- ・「一度帰農した者の
士族復活はありえない」
千葉卓三郎の願いは
かなわず
- ・千葉家の家名存続を
深沢権八に遺言



図19 千葉卓三郎の遺言 深沢権八が代筆
『自由民権に關したる書翰
三郎・自由を求めたがたがた』
江井秀雄著 草の根出版会より

25

卒業研究を終えて

- ・明治の人々は学習熱心だった
- ・明治維新の衝撃は、五田市豪農の「知的欲求」を実行に
うつす契機になった
- ・学芸講談会が私たちに語りかけることは？



図20 千葉卓三郎の遺言ノート 五田市郷土館で撮影

26

ご清聴ありがとうございました

27

第 21 回放送大学研究発表会 ご挨拶
実行委員長 中根 恵美子

昨年 11 月に開催した放送大学研究発表会は放送大学同窓会設立 20 周年と同様に 20 回目を数えました。北海道同窓会が平成 17(2005)年に全道生涯学習研究発表会として開催し、第 7 回からは学生や学生サークル、学習センターと協働する三位一体の実行委員会として今日まで、放送大学生の研究成果を本学の学生ばかりではなく広く道民に発表し、報告する場を作っていました。年 2 回開催した時期もありました。記念講演は元北大総長の丹保憲仁先生が連続 3 回、富田房雄元所長も 3 回、他の各所長も在職中に 2 回ずつ講演して下さったことなどもありました。また、昨年の記念の回には岩永放送大学長に記念講演をしていただきました。



主役の発表者は昨年までで 61 名となり今回で 63 名となります。このように継続出来てきたのは講演者や発表者のみならず、放送大学学習センター職員の皆様の強力なバックアップの賜物であると同時に、企画運営をし、ポスターを貼りチラシを配り、放送大学の学生の頑張りを広報し続けた実行委員の一人一人の力が実を結んできたと感じます。このような北海道の放送大学生の底力と、皆様方のお力添えによって、素晴らしい研究発表会とすることができてきました。本当にありがとうございました。第 21 回目の今回は当学習センター客員教授で北大名誉教授の鈴木純一先生に「メディアと社会的リアリティの再帰性について」の講演をいただく予定です。現代メディア社会について学び、知見を広めたいですね。また、発表者熊谷寿二さんは博士課程後期に在学中で博士論文を書いている真っ最中のところ発表していただきます。谷口玲子さんは卒業研究論文優秀賞を受賞された「漢詩と公共空間-五日市学芸講談界の考察-」と題しての発表で、昭和 43 年に発見された明治初期の人々の学びに対する熱気が伝わってくるような論文となっていて明治維新からの自由民権運動に引き込まれて行きそうです。お楽しみに。

さて、この研究発表会は、放送大学大学院で研究をされた方々はもちろん、学部を卒業された方々、また、学部を卒業した後、北海道大学大学院で研究を付けている方を含め、興味深い研究をされている学生に研究成果を発表していただいています。身近な仲間たちからの発表の場となり、この発表会を通じて、ここに集った学友が楽しみながら自分たちで研究会を作ったり、研究についてのノウハウを先輩や学友とともに学び、ブラッシュアップして大学院を目指して学びを深めています。そして「次回は自分も発表できるぞ!!」と思って研鑽を積んでいただき、この会で発表していただきたいと願っています。

この実行委員会は、学習センターとともに、現役の学生や学生サークル・同窓生や、再入学して勉学に励んでいる方など、様々な人たちが一体となって、まさに「自分たちでつくる」、「聞いてよし、発表してよし、運営してよし」の三拍子がそろった研究発表会であります。皆様、お楽しみください。

【 第 21 回放送大学研究発表会 ご挨拶 】

放送大学北海道学習センター
所 長 山 田 義 裕

北海道学習センターで開催してきた放送大学研究発表会は、昨年が 20 周年の区切りの年度で、今年からまた新たなスタートを切ることになります。すでにご案内のとおり、今回は 2 名の方に研究成果をご披露いただくことになっております。これまで研究会の準備を進めていただいた研究会実行委員長の中根恵美子様をはじめ委員の皆様には、企画から実施に至るまでご尽力いただき感謝申し上げます。また本日は、今年 4 月から客員教員をお願いしている北海道大学名誉教授の鈴木純一先生に記念講演をお引き受けいただいております。関係者を代表して、心よりお礼申し上げます。



本日の発表者をはじめ今回学位論文研究を終えられた方たちは、論文を書き上げて審査を終えるまで大変なご苦勞をされたはずですが、同時にその試行錯誤の中で様々なことを経験し、多くのことを学んだのではないのでしょうか。この学びの意味や価値は今すぐには分からなくても、この後の研究活動や仕事の現場あるいは日常生活を通じてあらためて見出すことになるのではないかと思います。

学位論文研究は、研究テーマを設定して研究計画を立てるところから始まります。研究計画の作成や学術論文の執筆のトレーニングは、一昔前は「理系」分野や心理学等の一部「文系」分野でしか行われていませんでしたが、現在は殆どの大学でエッセイ・ライティングやアカデミック・ライティングに関する授業が設けられており、また研究論文執筆を指南する良質のガイドブックも多数出版されています。放送大学の今年度の放送授業でも、本部の専任教員による「日本語アカデミックライティング」が開講されているのはすでにご存知のことと思います。

学位論文研究を進める上で、論文作成法を初めとする研究の作法を修得することと同じくらい、あるいはそれ以上に重要なのが独自の「研究テーマ」を考え、それを明確化することです。研究テーマはそれぞれの興味関心に従って設定されますが、最初はその輪郭がぼんやりとしている場合が普通ではないのでしょうか。ただその後、指導教員とのディスカッションを通じてそれぞれの研究が目指すところが次第にクリアになっていきます。研究テーマを絞り込むプロセスで最も重要なのは、適切な「問い (issue)」を立てることです。この問

いは、「研究課題 (research question)」と呼ばれることもあります。私は大学院で研究を始めた頃、信頼のおける先輩研究者から、研究で一番大切なのはすでに目の前ある課題の答えを見つけることではなく、研究に値する「問い」を見つけることであると教わりました。この教えは、その後の自分の研究活動や学生の論文指導の中で幾度も実感し、今では確信に変わっています。少し大げさかもしれませんが、適切な問いを立てることができれば、論文の半分は出来上がったといってもよいくらいだと思っています。本日の参加者には、これから学位論文研究に挑戦しようと考えている方も多いと思いますが、研究テーマを構想する際には、最初は暫定的でよいので、自分なりに「問い」つまり研究課題を明示的に設定してみてください。

また、特に文献調査を中心に卒業研究を進める人へのアドバイスですが、研究書や論文を読む際にはレジュメの作成を心がけましょう。優れた論文のレジュメを作成することは、論理的文章を作成するための非常によいトレーニングになります。文の論理構造を把握し、議論の展開をきちんと抑えて、他の人が読んでも分かるようにきちんとまとめるのは、簡単なことではありません。議論を深いところで理解しようと努める中で、論理展開の矛盾に気がつくこともあるでしょう。このような批判的な読解を通じて、研究の新たな種がみつかるということも少なくないので、レジュメの作成は研究者にとっては欠かせない作業の一つなのです。言わずもがなですが、生成 AI に文章要約を「外注」するのは、こうした知的営みからの退却にほかなりません。

学位論文を目指す方たちに、もう一つアドバイスがあります。それは、研究というのは一人で行うものではないということです。学術研究はすべからず共同研究であり、他の社会的営為と同様に、共同性の営みのひとつです。先行研究を読む場合も、それは先達との対話と考えられます。研究を進める上で、指導教員や研究仲間とのディスカッションが何よりも大切であることを忘れてはいけません。北海道学習センターでは、独自の試みとして、客員教員による「基礎ゼミ」が展開されています。基礎ゼミでは論理的思考法・研究実践法・論文作成法の三の柱を設けて、ゼミナール形式で実践的「ぶつかり稽古」を通じて研究の作法を教えています。レジュメの作成方法も学ぶことができます。卒業研究、さらにその先の学位論文研究を考えているかたは、是非とも基礎ゼミを通じて教員や研究仲間と共に学術研究とは何かを学んで下さい。

皆様のこれからの研究活動が実り多いものであることを祈っています。

第21回放送大学研究発表会が 行われました

11月22日（土）、北海道学習センター大講義室並びに Zoom 同時配信にて、第21回研究発表会を開催いたしました。放送大学北海道学習センター客員教授をお迎えし記念講演をしていただきました。また発表1の熊谷寿二氏にご指導下さった玉野和志放送大学教授からのコメントは山田所長に代読していただき、発表2の谷口玲子氏の指導をされた杉浦秀一元放送大学北海道学習センター客員教授には会場でコメントをいただきました。参加者は会場 32 名 Zoom 参加者 31 名合計 63 名が参加しました。また、今回も Zoom による同時配信を行いました。ZOOM の技術的な面は学習センターの職員の皆様が神経を使う作業を引き受けて下さり、本当にありがとうございました。

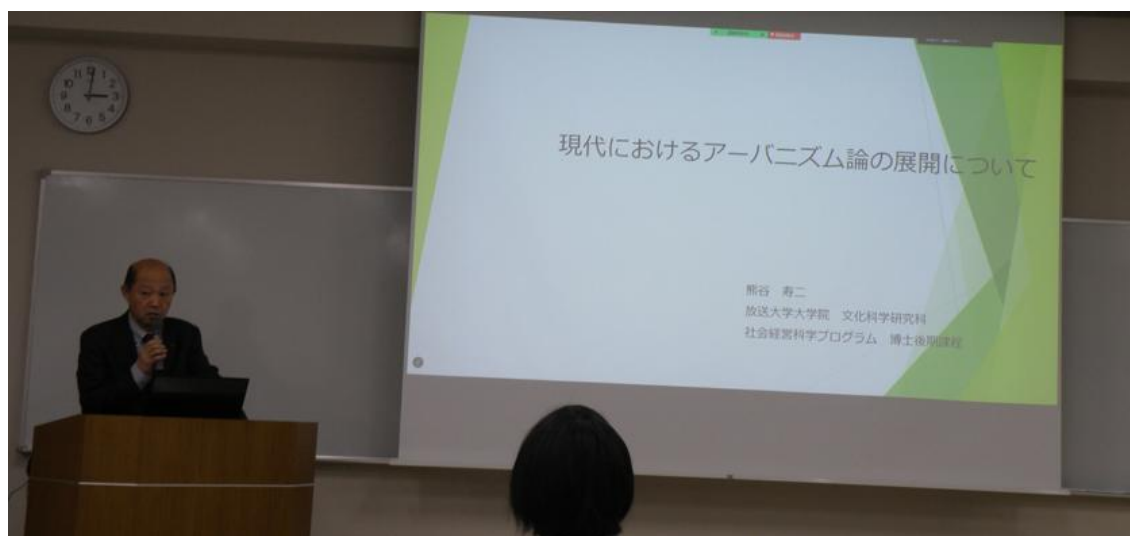


☆記念講演 「オールドメディア」が流行語大賞にノミネートされる昨今、私たちが本当の情報を得るためには、情報リテラシーを会得するにはどのような学びが必要なのかとの問いに、まず、私たちが日常得ている情報はどのようにして再生されているのか？ 社会的リアリティの再帰性と相互性について(マスメディアとネット・コミュニケーション)学びました。再構築された情報の中からより真実に近いものを探し出す能力は自分自身で磨いていかななくてはならない。情報の真実を得るには私たちは今まで放送大学で学んだ知識や知恵をフル回転する必要があると学べた講演でした。



☆研究発表1「現代におけるアーバニズム論の展開について」

博士後期課程 在学中の熊谷寿二氏の研究はルイス・ワースが1938年に提起したアーバニズム論が100年近く経過した近年の新しい都市理論におけるアーバニズム論を比較し、英語圏の議論が日本の文脈へ適用可能かどうかを古典的アーバニズム論から比較し、現代都市におけるアーバニズム論を個性や多様性をアーバニズムとして捉える視点に注目した発表でした。発表終了後、玉野指導教授からのコメントを山田所長が代読しました。



☆研究発表2「漢詩と公共空間—五日市学芸講談会の考察—」

発表者の谷口玲子氏は五日市という山村から昭和43年に民家の土蔵から通称「五日市憲法」と資料が発見され、豪農が中心となって学習結社を設立し、「五日市学芸講談会」自由に議論しあう「公共空間」として捉え、そこに集ったメンバーの、教養としての「漢詩」と変革思想との関連性を明らかにした。発表後杉浦指導教授からコメントがありました。また会場からの質問に、谷内氏は、「五日市は地理的に江戸から近く、風光明媚な土地として江戸から観光にも来ていた」として、「このような講談会が活でける素地があった」と語った。



第 21 回 放送大学研究発表会を終えて

放送大学大学院文化科学研究科社会経営プログラム 博士後期課程 熊谷 寿二

11 月 22 日土曜日に、放送大学北海道学習センターにおいて「現代におけるアーバニズム論の展開について」というテーマで研究発表をさせていただきました。当日は雪も積もり寒いなか、たくさんのかたに研究発表会に来ていただき大変ありがとうございました。今回の発表は、今年 3 月に放送大学大学院修士課程を修了するにあたり作成した修士論文をもとにしたものです。

アーバニズム論という、日常では耳にすることがない言葉ですが、私も修士論文作成にあたっては、初めての取り組みで無我夢中で実際のところ十分に理解できているとはいえないかもしれません。アーバニズムという英語は、100 年前のワース論文では「生活様式」、その後のフィッシャー論文では「都市度」、と一般的に訳されています。それでは現在においては何と訳せばよいのだろうか、「都市生活」と訳すのがよいのか、他にあてはまる良い言葉はなんだろう、それを考えながら日々学びを進めています。修士論文作成にあたっては、私自身の問題設定がなかなか定まらないなか、指導責任者の玉野教授からさまざまな角度から問いをいただき、さらに先生の我慢強くかつ忍耐力あふれる指導により、なんとか一つの結論にたどり着くことができました。発表時に玉野先生からいただいたコメントと質問は、先生からの宿題だと受けとめさせていただきました。発表内容はできるだけわかりやすく伝わりやすいものにしようと努めたのですが、至らない部分が多々あったかもしれません、この場を借りてお詫びさせていただきます。さらに、このような発表の機会をいただくことで、あらためて修士論文の内容を見直し整理することができ大変ありがとうございました。現在同じ内容をテーマとして、博士課程にて論文作成に取り組んでいるなかで、アーバニズム論についてぼんやりとしていたイメージが、少しずつですが姿がはっきりとしてきたような気がしています。地球規模でさまざまな現象が起きる現在ですが、そのなかでも私たちの日々の生活は営まれています。その日々の生活のなかで人と人、人と地域、そして人と社会の間で何がおきているのかを探ること、それが現在私が取り組んでいる都市社会学という分野の問題設定だと私は考えています。今回の研究発表会を一つの出発点として今後の学びの中に活かしていきたいという想いをこの場をかりてお伝えすることで研究発表会の感想とさせていただきます。



第 21 回 放送大学研究発表会アンケート 集計報告

令和 7（2025）年 11 月 22 日実施

放送大学研究発表会実行

委員会

※アンケート方法

受付時に資料と共に配布し、研究発表会終了後に回収。 アンケート有効回答数 23

質問 あなたの性別・年齢は？

性別



■ 女性 ■ 男性

年齢



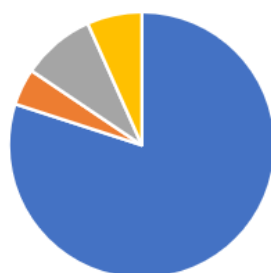
■ 19歳以下 ■ 20代 ■ 30代 ■ 40代
■ 50代 ■ 60代 ■ 70代 ■ 80代以上

質問

B あなたのお住まいは？

質問 あなたの所属は？

所属



■ 放送大学生・同窓生 ■ 他の大学生
■ 道民カレッジ生 ■ その他（ ）

質問 あなたはこの発表会を何によって知りましたか？
 あなたはこの発表会を何によって知りましたか



- 1 ポスター・チラシを見て(見た場所)
- 2 学生掲示板・てんとう虫を見て
- 3 友人・知人からの案内
- 4 ホームページ・ライン・フェイスブック・などを見て
- 5 道民カレッジ講座冊子

質問 発表会について

● 記念講演について

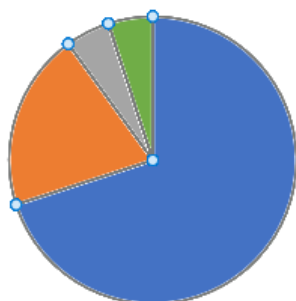
記念講演



- ① とても良い
- ② 良い
- ③ ふつう
- ④ 少し難しかった
- ⑤ 不満足
- 回答なし

● 発表 2 の内容

発表 2



- ① とても良い
- ② 良い
- ③ ふつう
- ④ 少し難しかった
- ⑤ 不満足
- 回答なし

● 発表 1 の内容

発表 1



- ① とても良い
- ② 良い
- ③ ふつう
- ④ 少し難しかった
- ⑤ 不満足
- 回答なし



意見・感想

・	楽しかったです
・	三つの発表とも大変興味深いものでした。ありがとうございます。
・	初めての内容で、少し難しかったけどとても興味深く聴きました。ありがとうございます。
・	メディア論を来年受講しようと思います。有意義な発表会ありがとうございます。
	小樽市は豪商が学校の土地を寄付したり、道路を作ったり私費を投じましたが、五日市では
	文化の発展に尽くしたことがわかりました。漢詩・漢文が出来るのはステータスであったと思います。
・	今回の研究発表会は講演から発表 1、発表 2 まで話題がつながった。共同圏（コミュニティ）に
	ついて大変良かった。
・	アーバニズム論の展開については少し専門的であった。
	発表者：谷口さんのテーマは難しかったが内容はわかりやすく、話し方も大変良かった。
	明治維新時の五日市の取り組みを知った。
・	概要に要約されており、自分では十分納得できました。谷口玲子様ありがとうございました。
・	記念講演について、もっと一般的な話をしてくれる講師を望む。学説を聞く場ではない。
	学説や研究をしゃべりたいのであれば、特定の学生が対象ではなく、一般の放送大学生に対する
	話を望む。
・	最初の準備、PC の操作が遅れ気味

最終的に最終発表者 16:03 であった。（コメンテーター 16:03～16:10）
質疑応答 16:13～50 分 閉会 16:50～
（パワーポイントの表示？）全画面表示なるように練習必要
*熊谷さんに
①第三世代の国々について（又は外国人移住社会）に視点当てていく
境界のない領域
P26 貧富・格差・他の問題
② スマートシティについて
今までに車倒（？）があるか視点を当ててみてください

GF 回答

・	学生の方の発表はどちらも良く勉強されていると思いました。特に谷口さんの発表は興味深かった です。鈴木先生の記念講演はもう少し一般の人が聴いてもわかるように配慮しかったです。 それから、Zoom では聞きにくい部分がありました。オンラインで講演会を配信するのは むずかしいとは思いますが、写し方や音声などもう少し考えてほしいです。
・	ズーム参加ですが司会者等（講師と発表者は問題なかったが）の音声小さく聞こえなかった。
・	公演が始まるまでに時間を要していたので速やかに始まるよう要望します。
・	ZOOM 参加しましたが会場の雰囲気が伝わるようでした。 質疑の時間が有意義で興味深かったです。
・	発表テーマ2の「五日市学芸講談会の考察」については、場所が五日市ということで、 私は五日市の隣の福生市に実家があり、あきる野市は非常に馴染みのある地域であり、 親近感をもって発表を聞かせていただきました。

今後の開催テーマ

・	北海道の開拓 明治から開拓の様子 現在まで。 北海道の農業、特に米作農業について 米作付についての調整 スマート農業 今年（令和7年）の米問題、備蓄米など 北海道の港の役割 新幹線との関係 輸出輸入関係
・	誰もが興味を持つ分野を

	今回は杉浦ゼミ参加学生の学んでいる分野に片寄っている。（再考を希望する）
	本日の発表の順番が記念講演の主題と発表2と関連があるので、発表1と2を入れ替えた方が良かったのではないかな。
・	国際政治と日本の関係

GF 回答

・	世界各地で紛争・戦争が頻発しているので、国際情勢の背景などを講演で聞きたい。
・	北海道の地理歴史文化に関する研究
・	シニアの情報リテラシー

次回開催予告

第22回放送大学研究発表会

令和8(2026)年10月31日開催予定

博士課程修了・修士課程修了・学部卒業の皆さま

研究発表会実行委員会では研究発表者を募集しています。

第21回放送大学研究発表会実行委員会

発表して頂ける方は下記までメールでお知らせください。

hokkaidosokai@gmail.com

開催予告

第21回定期総会

放送大学北海道同窓会

令和8(2026)年5月23日(土)開催予定

総会終了後懇親会を予定しています。

放送大学北海道同窓会会長中根恵美子

詳細が決まり次第お便りします

北海道(ヒグマ)



ユニークな活動をしている同窓生

農業手伝いと学び

同窓会幹事 成田 孝男

定年退職をして2年後の62歳の時にがん手術をし、主治医から今後の健康のため運動をせよと指示されていたがなかなかやる気が出なかった。

ある日、帰宅すると農業手伝いの誘いのチラシを見つけた。2度と癌は嫌だ。否が応でも体を動かせる、動かさなければならない仕事として一大決心で行うことにした。桃栗三年柿八年あれから17年目を迎える。

昼休みには札幌冬季オリンピックで使われた遠くの手稲山や恵庭岳を眺めながら愛妻弁当に舌鼓を打つのは何ともいえない至福の時間である。喜寿を超えて区切りをつけるのも一方法であろう。しかし、気候が良くなると外へ出たくなるのだ。外のおいしい空気と日々のいろいろな野菜の成長を見ながら体を動かしていると頗る体調がいいのだ。農業手伝いが不足している昨今、楽しみを見つけながら老翁は今年も頑張っていこうと思う。

私が農業手伝いをしているのは、主に江別市内の農家さんである。当初は、雪が解け3月末の山わさび収穫に始まり、初冬の山わさび収穫で一連の農作業は終わった。江別市は、これまでブロッコリーの収穫量が道内一（最近是他町がトップ？）であり、最盛期は早朝5時からブロッコリー収穫作業が始まる。その後は各種作物の除草等の作業がある。時期に応じ田植え、ニンニクの収穫と植付け、カボチャの定植と収穫、じゃがいもの植付けと収穫やネギ、インゲン、キャベツ、白菜、トマト、大根などいろいろな作物の収穫に携わることになる。健康管理のために始めた農業手伝いであるが日々の野菜の成長を眺めるのが楽しみとなった。

このような時に放送大学のことをA女史から勧められ、74歳の時に入学した。放送大学の取得1単位が道民カレッジの15単位になる互換制度があることも教えられて一層勉強に熱が入った。何とか卒業し、今は2コース目を受講中である。1コース最低2年間であり、全5コースを修了するためには最低10年間かかる。何とか頑張っ楽しく実のある80代を過ごしてみたい。同窓会にも2025年3月に加入した。元気でお手伝いできるうちは同窓会も農業手伝いもやっていこうかと思っている。何はともあれ健康が第一であろう。為せば成る。



サークル紹介

みなさんこんにちは！ Enchantee! 初めまして！

フランス語サークル「Bonjour」です。今日はみなさんに私たちのサークルを紹介いたします。

フランス語サークルは、会話中心の土曜日コースと小説の翻訳中心の水曜日コースがあります。

土曜日コースは月 2 回の 10時から12時までの活動で、先生は北大大学院の留学生の方です。2年前からブルキナファソ出身のKi先生に教わっています。すらりとした長身のとても優しい先生です。ブルキナファソの気候や食べ物、生活の様子を聞けることも私たちにはとても興味深いです。教室の雰囲気はアットホームで、レッスンが始まる前は近況報告に花が咲き、旅行や面接授業の報告など楽しい時間です。姫路や大阪まで面接授業を受けに行かれる方もいて素晴らしい仲間たちです。2年前の学校祭ではフランス語で赤ずきんちゃんの寸劇を発表し、楽しい思い出ができました。授業中には熱心にフランス語で説明される先生に「WAKARU?」と聞かれて、、、シーン、、、そんな日もありましたが、今は活発に応答できるようになりました。リンゴはune pomme 女性名詞で、車もune voitureです。では、pizzaは? 本 livreは? 地下鉄メトロは? なんだろう。こんな事からフランス語は始まります。街を歩いていてフランス語を見つけると、嬉しくて幸せになる。そんな私たちです。あなたも一緒にフランス語を学んでみませんか！

水曜日コースは第2第4水曜日11時から12時半までの活動です。フランス語の小説や詩文を自分たちで翻訳しながらじっくりと勉強する素敵な仲間たちがいます。

「80日間世界一周」「三銃士」「レミゼラブル」「美女と野獣」など、たくさんの翻訳をしています。また、この数年は学校祭でヴェルレーヌの詩の朗読などを発表して好評を得ています。有名な「落ち葉」秋の日のヴィオロンのため息の、、、みなさんもお存知の詩を是非フランス語でお聞きになってください。(今の季節にとっても良い)

お聞きになりたい方は、ぜひ水曜日コースにお越しください。大歓迎です。会員一同でお待ちしています。

フランス語サークル代表 谷口美恵



会費納入と新入会員募集のお知らせ

2025年度の継続会員の方は、今年度の会費1,000円を下記口座にお振込み下さるようご協力願います。

また、同窓生の中で同窓会に入会されていない方がおられましたら、入会をおすすめくださるようお願いいたします。

入会を希望される方は、郵便振替用紙に「氏名、住所、電話番号、卒業年月、専攻コース」を記入の上、入会金1,000円、年会費1,000円を下記口座へご送金ください。（次年度以降は年会費のみとなります。）また、70歳以上の方は、1万円で終身会員となります。

ゆうちょ口座名 放送大学北海道同窓会
口座番号 02740-0-37725

放送大学を宣伝してください！

皆さんの『ロコミ』で、放送大学に入学して良かったと思うことを、大勢の方々に知らせてください。

入学等に関する問い合わせ先
放送大学北海道学習センター

TEL 011-736-6318

『会員の声・読者の声』募集中！

現在、会員や読者の皆さんの声を募集しております。皆さんの近況や会報へのご感想、ご意見がございましたら、是非お知らせください。

（宛先） 〒060-0817

札幌市北区北17条西8丁目 北海道大学構内 放送大学北海道学習センター気付

放送大学北海道同窓会

学習センター事務室内ポストに直接投函可

hokkaidosokai@gmail.com

新入会員のご紹介！！

2025年9月卒業生（敬称略・順不同）

・（心理と教育）森 寿幸、・（心理と教育）西村 弘・（心理と教育）佃 チエ・（社会と産業）渡辺 芳雄・（心理と教育）池田光江・（心理と教育）仁井 博之

2025年9月は6名入会されました。

・住所・電話番号などの変更のときにはご連絡をお願いします。

編集後記

北海道の農業や家庭菜園では、今まで鹿とアライグマの被害が殆どで、熊による人里荒らしは76年生きてきて1度か2度それも子どもの頃、大滝村の農家の家畜小屋が襲われたり、牛舎が襲われてその周辺はみな離農したことがありました。その離農した跡地にぼりぼり(キノコ)を10名ほどで採りに行ったことがあります。やはり熊が出ました。夢中で逃げたました。

熊は学習能力があり、人里にはおいしいものがあると親から子へ学習されます。

「人間は恐ろしい」と学習しない限り今年のようなことが続きます。山が豊作でも熊は甘党ですから町へ出てくるでしょう。札幌市内でもひとりで散歩は危険ですね。

今年は野生動物が人家の周辺に頻繁に表れるようになりました。鹿も市内の車道を群れで走るなど、人との共存ができなくなっています。雪が降ってしばれてきたので、早く冬眠してほしいですね。